

日本語指導担当教員のための外国人児童生徒教育"初任者"研修(1)

文部科学省 平成 19 年度 JSL カリキュラム実践支援事業

「日本語指導担当教員のための外国人児童生徒教育"初任者"研修」

■研修目的:

本研修の目的は、外国人児童生徒の日本語指導を初めて担当する教員が、JSL カリキュラムを指導する上で必要となる基礎的な知識を習得することです。具体的には、外国人児童生徒の指導上の留意点、日本語指導の方法、JSL カリキュラムを実践するための環境作り、日本語指導教室の運営上の工夫点、学校内での他の教員等との連携関係の築き方などについて、知識と理解を深めることを目的とします。

■受講対象:日本語指導教室を初めて担当する教員(原則として担当1年目)

■受講者数:40名

■開催期日:

[1]初任者研修 平成19年5月25日(金)~5月27日(日)(計3日間)

[2]フォローアップ研修A 平成19年8月25日(土)(計1日間)

[3]フォローアップ研修B 平成20年2月2日(土)(計1日間)

■研修のねらい:

[1]初任者研修(→JSL 指導準備段階)

日本語指導教室の運営と日本語指導(初期指導、JSL 指導)を行っていく上で、当面、最も必要とされる基礎的な知識や技術の習得を目指します。

[2]フォローアップ研修A(→JSL 指導チャレンジ段階)

1学期の指導を終えて、初任者研修受講以降の自らの取り組みを振り返り、指導結果の点検を行うとともに、新たな課題を発見し、さらなる指導力の向上を目指します。

また、JSL カリキュラムとその指導法を学び、効果的な日本語指導に向けた実践力の習得も図ります。

[3]フォローアップ研修B(→JSL 指導拡充段階)

約1年の指導を終えて、指導結果の点検を行うとともに、自己の力量形成の過程を記録します。また、次年度、JSL カリキュラムの本格的実施に向けて、さらに伸ばしたい力や習得したい知識や技術の確認、あるいは、後任者に引き継ぐ場合には引き継ぎの体制作り等、今年度の取り組みを次年度につなげるための方法等について考えていきます

■実施場所: 学校見学(5/25:金)を除いて、研修はすべて、東京学芸大学小金井キャンパス内で実施します。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 >>アクセス

■指導者:

・当センターの教員が、講義・演習等の講師のほか、研修全般にわたって、助言者、支援者として、受講者のサポートに入ります。・各研修プログラムでは、外国人児童生徒の指導や日本語指導において、経験豊富で指導的立場におられる先生方に、講師として参加していただく予定になっています。

■プログラム

[1]初任者研修「日本語指導教室づくり その第一歩 経営案と指導案をつくろう」

【第1日目(5月25日:金)】

テーマ 先輩の日本語指導教室をのぞこう

目標 日本語指導教室づくりのイメージをつかむ

10:00 新宿区立大久保小学校正門前集合

10:05～(3時限目見学 10:30～11:20) 学校見学 訪問校 東京都新宿区立大久保小学校(多数在籍校)

一時解散

13:10 北区立第三岩淵小学校正門前集合

13:15(5時限目見学 13:40～14:30) 学校見学 訪問校 東京都北区立第三岩淵小学校(少数在籍校)

現地解散

【第2日目】(5月26日:土)

テーマ 日本語指導教室、どうやって運営しよう？

目標 日本語指導教室づくりのイメージレポートを作成する

9:45～ 集合・受付 (東京学芸大学 小金井キャンパス S棟4階)

10:00～12:00 講義－日本語指導担当の役割と指導上の留意点

講師 大蔵守久先生(波多野ファミリスクール)

「日本語指導担当の役割～初任者研修の実施経験から」

講師 山中文枝先生(茨城県神栖市立植松小学校)

「日本語指導担当の役割～日本語指導教室の立ち上げ経験から」

講師 近田由紀子先生(浜松市教育委員会)

12:00～13:00 昼食・休憩(各自)

13:00～16:00 演習－日本語指導教室の運営のコツをつかむ～指導個票を手がかりに

助言者 市川昭彦先生 (群馬県大泉町立東小学校)

近田由紀子先生 (浜松市教育委員会)

櫻井敬子先生 (浜松市立遠州浜小学校)

矢部澄子先生 (北区立第三岩淵小学校)

山中文枝先生 (茨城県神栖市立植松小学校)

小田倉直子先生 (前茨城県神栖市立神栖第三中学校)

・前半は、受講者のニーズに応じていくつかのグループに分かれ、グループごとに受講者が現在抱えている日本語指導教室の運営上の課題について討議を行う。グループごとに助言者が1～2名入る。

・後半は、グループ討議の結果を報告しながら全体討議を行う。あわせて、日本語指導教室運営の際の1つの具体的な手がかりとなる、指導個票の作成方法について学ぶ。山中先生から指導個票作成上の留意点について説明を行う。

16:15～17:15 実習－日本語指導教室の経営案を作成する

助言者 市川昭彦先生（群馬県大泉町立東小学校）

近田由紀子先生（浜松市教育委員会）

櫻井敬子先生（浜松市立遠州浜小学校）

矢部澄子先生（北区立第三岩淵小学校）

山中文枝先生（茨城県神栖市立植松小学校）

小田倉直子先生（前茨城県神栖市立神栖第三中学校）

・前の時間に行った演習を受けて、グループ討議や全体討議によって得たヒントをもとに、受講生は各自、自分の日本語指導教室をどのように運営していくかについて、経営略案ないしイメージレポートを作成する。

・受講者は、前の時間に引き続き、グループに分かれて作業を行う。グループごとに助言者が1～2名入る。

【第3日目】(5月27日:日) (東京学芸大学 小金井キャンパス C棟2階)

テーマ 日本語指導、どうやって教えよう？

目標 日本語指導案と指導個票を作成する

9:45～ 集合・受付

10:00～12:00 参観－模範授業参観

「日本語指導の模範授業～初期の日本語指導と教科指導のさわりの部分

講師 大蔵守久先生(波多野ファミリスクール)

おそらく一まとまりの授業をご覧いただくより、1つでも多くの指導例を見ていただいた方が、授業の「切り札」がたくさん手に入ってよいのではないかと思います。「模擬授業」というより、単語を教え、習得させるにはこんな方法があるという事例をたくさん紹介します。(大蔵先生談)

12:00～13:00 昼食・休憩(各自)

13:00～15:00 実習－日本語指導の指導案を作成する

助言者 大蔵守久先生（波多野ファミリスクール）

近田由紀子先生(浜松市教育委員会)

櫻井敬子先生（浜松市立遠州浜小学校）

山中文枝先生（茨城県神栖市立植松小学校）

菅原雅枝先生(東京学芸大学附属大泉中学校非常勤講師)

・冒頭に大蔵先生から、日本語指導案作成上の留意点について説明を行う。

・受講者のニーズに応じていくつかのグループに分かれ、グループごとに、受講者は自らの指導事例を題材にして、指導案の作成を行う。

・グループごとに助言者が1～2名入り、日本語指導案の作成方法等について指導・助言を行う。

15:15～17:15 実習－日本語指導のカリキュラムと教材を作る

助言者 大蔵守久先生(波多野ファミリスクール)

近田由紀子先生(浜松市教育委員会)

櫻井敬子先生（浜松市立遠州浜小学校）

山中文枝先生（茨城県神栖市立植松小学校）

菅原雅枝先生(東京学芸大学附属大泉中学校非常勤講師)

- ・冒頭に大蔵先生から、日本語指導のカリキュラム作成上の留意点について説明を行う。
- ・受講者のニーズに応じていくつかのグループに分かれ、グループごとに、受講者は自らの指導事例を題材にして、日本語指導のカリキュラムと教材の作成を行う。
- ・グループごとに助言者が1~2名入り、日本語指導のカリキュラムと教材の作成方法等について指導・助言を行う。

第28回 海外子女教育セミナー

「海外子女教育の新たな実践の展開」

今年度は、海外子女教育の実践に役立つプログラムを企画しました。午前は、文部科学省国際教育課海外子女教育専門官坂本淳一氏から講義をいただきます。教員派遣制度もシニア派遣など、多様化していますので、新しい情報提供もしていただく予定です。その後、国際教育センターの佐藤郡衛教授が昨今の動向を踏まえた海外子女教育について、特に実践面から話をします。

午後はワークショップを開催します。管理職(日本人学校の校長、教頭を対象)、日本人学校教員、補習授業校の3つのグループに分かれます。各グループではファシリテーターが中心になり、前半は2~3のテーマを設定し参加者で考えていきます。後半は、なんでも相談コーナーです。参加型のワークショップを企画していますので、ふるってご参加ください。

■日時: 平成19年6月16日(土) 10:00~16:30

■会場: 東京学芸大学合同棟1階大教室

■対象: 在外教育施設派遣教員登録者、これから在外教育施設に派遣を希望する教員、および海外子女教育に関心をもつ方

■主催: 東京学芸大学国際教育センター

■プログラム

10:00~10:15 開会のあいさつ 加藤祐司国際教育センター長挨拶

このセミナーの説明と日程

10:20~11:10 教員派遣制度の現状と課題(仮) 坂本淳一(文部科学省国際教育課海外子女教育専門官)

11:15~12:00 海外子女教育の新しい動き-実践の視点から- 佐藤郡衛(国際教育センター教授)

12:00~13:15 昼食

13:15~16:25 ワークショップ (14:50~15:05 休憩)

》ワークショップ1 管理職のリーダーシップ(日本人学校管理職を対象)

ファシリテーター 益山哲雄(福島県南相馬市立石神第一小学校長)

(前釜山日本人学校長)

》ワークショップ2 日本人学校の新たな課題(日本人学校教員対象)

ファシリテーター 富田純司(川越市立川越第一中学校)

(前リオ・デ・ジャネイロ日本人学校)

》ワークショップ3 補習授業校の課題(補習授業校対象)

ファシリテーター 生野康一(全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会会長)

(元デトロイト補習授業校校長)

16:25~16:30 閉会

(詳細は随時ホームページに掲載します。)

学校管理職のための外国人児童生徒教育研修

■研修目的:

本研修の目的は、JSL 実践をサポートしていく上で校内体制作りのキーマンとなる学校管理職が、外国人児童生徒教育や日本語指導に関する基礎的な知識と理解を深めることです。具体的には、外国人児童生徒教育を進めていく上での学校経営上の留意点、他の教員に対する指導助言のあり方や啓発の方法、保護者や関係機関との連携のあり方などについて、知識と理解を深めます。併せて、日本語指導教室や日本語指導担当の現状を知ることによって、外国人児童生徒教育の指導環境を整備していく上での管理職としての自らの役割について、理解を深めます。

■受講対象: 外国人児童生徒が在籍する学校の校長、教頭・副校長等

■受講者数: 30 名

■開催期日: 平成 19 年 8 月 4 日(土)~8 月 5 日(日)(計 2 日間)

■実施場所: 研修はすべて、東京学芸大学小金井キャンパス内で実施します
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学

■指導者:

・当センターの教員が、講義・演習等の講師のほか、研修全般にわたって、助言者、支援者として、受講者のサポートに入ります。・各研修プログラムでは、外国人児童生徒の在籍校で管理職経験のある先生や、外国人児童生徒教育に関して指導主事経験のある先生方に、講師として参加していただく予定になっています。

■プログラム

【第 1 日目】(8 月 4 日:土)

テーマ もし、自分が日本語指導担当だったら?

目 標 日本語指導担当が直面する課題を知る

9:30~12:00 講義・実習—日本語指導担当について知る

講師 野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校教諭)(加配型:小学校)

〃 (前八王子市立第六小学校教諭)(センター校通級型)

高田 文芳先生(横浜市立港中学校教諭)(加配型:中学校)

高橋 悦子先生

(川崎市日本語指導等協力者、大和市外国人児童生徒教育相談員)(巡回指導型)

佐藤 郡衛先生

(東京学芸大学国際教育センター教授、JSL カリキュラム作成協力者会議座長)

・前半は、受講者が日本語指導教室、日本語指導担当、日本語指導等についてどのくらい理解しているかを確認するために、各自、簡単なワークシートを用いた作業を行う

・後半は、受講者のワークシート記入状況をもとに、講師が日本語指導担当の目から見た学校の中にある課題等について、講義を行う

・現場教員等の講義の後、JSLの指導環境について、当センター教員より総括講義を行う

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~14:45 講義—外国人児童生徒教育における学校管理職の役割

講師 立野 健二先生(前神栖町教育委員会指導主事、現神栖市立深芝小学校教頭)

佐藤 裕之先生(前川崎市教育委員会指導主事、現川崎市立殿町小学校教頭)

・学校全体として外国人児童生徒教育やJSL実践を行っていく上で、管理職に求められる役割や管理職が配慮する事項等について、外国人児童生徒教育に関する指導主事経験のある教員より講義を行う

15:00～16:30 演習一外国人児童生徒教育における学校経営上の問題Mapの作成

講師 野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校教諭)

高田 文芳先生(横浜市立港中学校教諭)

高橋 悦子先生

(川崎市日本語指導等協力者、大和市外国人児童生徒教育相談員)

立野 健二先生(神栖市立深芝小学校教頭)

佐藤 裕之先生(川崎市立殿町小学校教頭)

・受講者は、外国人児童生徒教育やJSL実践を行う上で、勤務校にいかなる問題や課題が存在するの
かを考え、勤務校の問題Mapを作成する。そして、問題 Map を見ながら、抱える問題に着手する優先順
位等を検討する。その際、可能であれば、問題や課題を抽出するだけでなく、問題の原因や課題解決の
糸口なども記入する

・受講者は勤務校の実態に応じてグループに分かれ、講師の助言を受けながら作業を行う

【第2日目】(8月5日:日)

テーマ JSL実践の指導環境を整えよう

目標 校内体制作りに向けた学校経営計画を立てる

9:30～11:00 講義一先進地域・学校の事例に学ぶ

講師 伊藤 哲也先生(豊田市立西保見小学校長)

高橋 和男先生(横浜市立港中学校長)

・第1日目に考えた、勤務校が抱える問題や課題を解決していくための手がかりを得るため、先進地域・
学校における管理職の経営実践事例について学ぶ

11:15～12:00 演習一問題解決に向けた学校経営計画案の作成

講師 伊藤 哲也先生(豊田市立西保見小学校長)

高橋 和男先生(横浜市立港中学校長)

立野 健二先生(神栖市立深芝小学校教頭)

佐藤 裕之先生(川崎市立殿町小学校教頭)

・受講者は、第1日目に作成した問題 Map について、同じような課題や問題に高い優先順位を置いた受
講者同士でグループを編成し、グループごとに、自分達が抱える課題を解決していくための具体的な経
営計画案を作成していく。

・経営計画案作成後、グループごとにその概要(成果)を発表する

・講師は、作業やグループ討議の際に助言を与える

12:00～13:00 昼食・休憩(各自)

13:00～15:00 演習一問題解決に向けた学校経営計画案の作成

講師 伊藤 哲也先生(豊田市立西保見小学校長)

高橋 和男先生(横浜市立港中学校長)

立野 健二先生(神栖市立深芝小学校教頭)

佐藤 裕之先生(川崎市立殿町小学校教頭)

15:15～16:30 振り返り討議・講義一新たな課題の発見と管理職の役割の再確認

講師 浜田 博文先生(筑波大学大学院准教授:学校経営学)

・受講者は各自、計2日間の研修全体を振り返り、研修によって何を学んだか、どんな課題を発見した
か、今後どんな課題に取り組んでいくか等について、研修記録をまとめる

・研修成果を共有するために全体討議を行うとともに、研修成果を明日からの学校経営に生かしていくた
めに、管理職の心構えや具体的行動についての総括講義を行う

日本語指導担当教員のための外国人児童生徒教育"初任者"研修(2)

文部科学省 平成 19 年度 JSL カリキュラム実践支援事業

「日本語指導担当教員のための外国人児童生徒教育"初任者"研修」

■研修目的:

本研修の目的は、外国人児童生徒の日本語指導を初めて担当する教員が、JSL カリキュラムを指導する上で必要となる基礎的な知識を習得することです。具体的には、外国人児童生徒の指導上の留意点、日本語指導の方法、JSL カリキュラムを実践するための環境作り、日本語指導教室の運営上の工夫点、学校内での他の教員等との連携関係の築き方などについて、知識と理解を深めることを目的とします。

■受講対象:日本語指導教室を初めて担当する教員(原則として担当1年目)

■受講者数:40名

■開催期日:

[\[1\]初任者研修](#) 平成 19 年 5 月 25 日(金)~5 月 27 日(日)(計 3 日間)

[\[2\]フォローアップ研修 A](#) 平成 19 年 8 月 25 日(土)(計 1 日間)

[\[3\]フォローアップ研修 B](#) 平成 20 年 2 月 2 日(土)(計 1 日間)

■研修のねらい:

[1]初任者研修(→JSL 指導準備段階)

日本語指導教室の運営と日本語指導(初期指導、JSL 指導)を行っていく上で、当面、最も必要とされる基礎的な知識や技術の習得を目指します。

[2]フォローアップ研修 A(→JSL 指導チャレンジ段階)

1 学期の指導を終えて、初任者研修受講以降の自らの取り組みを振り返り、指導結果の点検を行うとともに、新たな課題を発見し、さらなる指導力の向上を目指します。

また、JSL カリキュラムとその指導法を学び、効果的な日本語指導に向けた実践力の習得も図ります。

[3]フォローアップ研修 B(→JSL 指導拡充段階)

約 1 年の指導を終えて、指導結果の点検を行うとともに、自己の力量形成の過程を記録します。また、次年度、JSL カリキュラムの本格的実施に向けて、さらに伸ばしたい力や習得したい知識や技術の確認、あるいは、後任者に引き継ぐ場合には引き継ぎの体制作り等、今年度の取り組みを次年度につなげるための方法等について考えていきます

■実施場所: 学校見学(5/25:金)を除いて、研修はすべて、東京学芸大学小金井キャンパス内で実施します。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学 >>アクセス

■指導者:

・当センターの教員が、講義・演習等の講師のほか、研修全般にわたって、助言者、支援者として、受講者のサポートに入ります。・各研修プログラムでは、外国人児童生徒の指導や日本語指導において、経験豊富で指導的立場におられる先生方に、講師として参加していただく予定になっています。

[2]フォローアップ研修 A「1 学期を振り返ろう」

【第 4 日目(8 月 25 日:土)】

テーマ JSL 指導にチャレンジしよう

目標 JSL カリキュラムで教科指導の方法を学ぶ

9:30~10:45 演習—1 学期の取り組みを報告する

進行 臼井 智美先生(東京学芸大学国際教育センター准教授)

・前半は、受講者をグループに分け、前回の初任者研修以降の1学期間の取り組みの結果について、受講生各自、グループ内で報告を行う

・報告は、主に、日本語指導教室の運営に関するものと日本語指導に関するものに焦点を当てて行う。その際、[1]初任者研修時に抱えていた課題が改善ないし解決したケース、[2]初任者研修時には課題として認識していなかったがその後生じてきた新たな課題とそれへの対応方法等について、グループ内で意見交換を行う

・後半は、グループごとの意見交換の結果について、グループごとに全体に向けて発表する

11:00～12:00 講義—JSLカリキュラムについて知る

講師 佐藤 郡衛先生

(東京学芸大学国際教育センター教授、JSLカリキュラム作成協力者会議座長)

高木 光太郎先生

(東京学芸大学国際教育センター准教授、JSLカリキュラム作成協力者会議委員)

・JSLカリキュラムとはどのようなものか、その目的や指導内容、指導上の留意点などについて、文部科学省のJSLカリキュラム作成協力者会議の委員だった、当センター教員より講義を行う

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～16:00 演習—JSLカリキュラムで教科指導に挑戦する

講師 金子 正人先生(横浜市教育委員会)

近田 由紀子先生(浜松市教育委員会)

赤羽 寿夫先生(東京学芸大学附属大泉中学校教諭)

林 正太先生(東京学芸大学附属高等学校教諭、前東京学芸大学附属竹早中学校教諭)

佐藤 郡衛先生(東京学芸大学国際教育センター教授、JSLカリキュラム作成協力者会議座長)

高木 光太郎先生(東京学芸大学国際教育センター准教授、JSLカリキュラム作成協力者会議委員)

・前半は、事前課題として各受講者から提出されているJSL指導案について、講師から講評をもらう

・後半は、受講者をグループに分け、グループごとに講師からJSLカリキュラムでの教科指導の方法を具体的に学ぶ

第8回 外国人児童生徒教育フォーラム

■日時:平成19年10月6日(土) 9:30～16:30(受付9:10～)

■場所:中野サンプラザ 8階 研修室2

(〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 TEL 03-3388-1151)

最寄駅 JR中央線・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩1分

■テーマ:外国人児童生徒の進路選択と学力

■定員:90名

プログラム

総合司会 : 見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師)

9:30-9:40 開会の辞

・挨拶 加藤 祐司(東京学芸大学国際教育センター長)

【第一部】

9:45-12:00 シンポジウム 「外国人児童生徒教育における進路指導」

- ・趣旨説明 臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)
- ・中学校の現場から 藤本 美知代(三重県伊賀市立阿山中学校教諭)
- ・高等学校の現場から 大倉 安央(大阪府立門真なみはや高等学校教諭)
- ・巡回指導の現場から
高橋 悦子(川崎市日本語指導等協力者、大和市外国人児童生徒教育相談員)
- ・中国帰国者の立場から
大久保 明男(首都大学東京大学院人文科学研究科人間科学専攻准教授)

12:00-13:15 休憩

【第二部】

13:15-16:30 パネルディスカッション「外国人児童生徒教育における学力とは」

- ・コーディネーター：佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)

[前半]13:15-15:10

- ・趣旨説明 臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)
- ・学力をめぐる課題の整理 佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)
- ・学力とは...教科学習指導の視点から 佐々木 稔(京都教育大学附属桃山中学校教諭)
- ・学力とは...サービスラーニングの視点から
山田 千明(共栄学園短期大学社会福祉学科准教授)
- ・学力とは...移民教育(フランス)の視点から 園山 大祐(大分大学教育福祉科学部准教授)

[休憩]15:10-15:30

[後半]15:00-16:30

- ・パネルディスカッション 第一部および第二部の登壇者

16:30 閉会

第4回 国際理解教育セミナー

- 主催 東京学芸大学国際教育センター
- 日程 2008年1月26日(土) 13:00~17:00

■会場

東京学芸大学小金井キャンパス 国際教育センター(合同棟)1F 大教室

JR中央線武蔵小金井駅北口より

京王バス「中大循環」にて「学芸大東門」下車、徒歩5分

■参加費 無料

■定員 40名

■対象 国際理解教育、帰国・外国人児童生徒教育の研究者、実践者、教育関係者をはじめ、それらに関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。

■主催：東京学芸大学国際教育センター

■講師

- ・佐藤裕之氏(川崎市立殿町小学校教頭)
- ・善元幸夫氏(新宿区立大久保小学校教諭)
- ・野崎志帆氏(甲南女子大学文学部多文化共生学科准教授)

【セミナーの概要】

国際教育センターは、2004 年度から「国際理解教育セミナー」を開催している。第 1 回は「国際理解教育の新機軸—多文化・地域・市民性—」、第 2 回は「国際理解教育のおもしろさはどこにあるか—改めて国際理解教育の可能性を問う—」、第 3 回は「国際理解教育の新局面—その実践の再考—」というテーマで実施した。第 4 回目にあたる今回は、多文化共生が現実の課題となってきた今日における、国際理解教育の新たな展開について考えたい。これからの学校教育において、多様な文化的言語的背景をもつ個々人が他者と共に協力し、公正なより良い社会や未来を創造していこうとする人材を育てることは、緊急かつ必須の課題である。日本における多文化共生社会の創造に向けた個の意図的戦略的な育成が必要である。そのためには、日常的な実践が不可欠であり、それを実現するための多文化的なパースペクティブを獲得する必要がある。今回のセミナーでは、外国人児童生徒教育、帰国児童生徒教育、同和教育など多様な取り組みを通して、多文化的なパースペクティブとは何か議論し、多文化共生社会に向けた新たな国際理解教育の実践の視点を探っていきたい。

プログラム (リンクを押すと当日の様子が見られます(別のページに飛びます))

13:00 開会(加藤佑司 東京学芸大学国際教育センター長 挨拶)

13:10 >>趣旨説明

見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師)

13:30 >>提案 1 共生を軸に学校をつくる

佐藤裕之(川崎市立殿町小学校教頭)

14:05 >>提案 2 外国人児童生徒教育から考える多文化共生の教育とは

善元幸夫(新宿区立大久保小学校教諭)

14:40 >>提案 3 同和教育の実践から考える共生のための教育の視点

野崎志帆(甲南女子大学文学部多文化共生学科准教授)

15:15 休憩

15:30 >>パネルディスカッション

指定討論者 高木光太郎(東京学芸大学国際教育センター准教授)

16:50

閉会

日本語指導担当教員のための外国人児童生徒教育"初任者"研修(3)

文部科学省 平成 19 年度 JSL カリキュラム実践支援事業

「日本語指導担当教員のための外国人児童生徒教育"初任者"研修」

■研修目的:

本研修の目的は、外国人児童生徒の日本語指導を初めて担当する教員が、JSL カリキュラムを指導する上で必要となる基礎的な知識を習得することです。具体的には、外国人児童生徒の指導上の留意点、日本語指導の方法、JSL カリキュラムを実践するための環境作り、日本語指導教室の運営上の工夫点、学校内での他の教員等との連携関係の築き方などについて、知識と理解を深めることを目的とします。

■受講対象:日本語指導教室を初めて担当する教員(原則として担当 1 年目)

■受講者数:40 名

■開催期日:

[\[1\]初任者研修](#)

平成 19 年 5 月 25 日(金)~5 月 27 日(日)(計 3 日間)

[\[2\]フォローアップ研修 A](#) 平成 19 年 8 月 25 日(土)(計 1 日間)

[3]フォローアップ研修 B 平成 20 年 2 月 2 日(土)(計 1 日間)

■研修のねらい:

[1]初任者研修(→JSL 指導準備段階)

日本語指導教室の運営と日本語指導(初期指導、JSL 指導)を行っていく上で、当面、最も必要とされる基礎的な知識や技術の習得を目指します。

[2]フォローアップ研修 A(→JSL 指導チャレンジ段階)

1 学期の指導を終えて、初任者研修受講以降の自らの取り組みを振り返り、指導結果の点検を行うとともに、新たな課題を発見し、さらなる指導力の向上を目指します。

また、JSL カリキュラムとその指導法を学び、効果的な日本語指導に向けた実践力の習得も図ります。

[3]フォローアップ研修 B(→JSL 指導拡充段階)

約 1 年の指導を終えて、指導結果の点検を行うとともに、自己の力量形成の過程を記録します。また、次年度、JSL カリキュラムの本格的実施に向けて、さらに伸ばしたい力や習得したい知識や技術の確認、あるいは、後任者に引き継ぐ場合には引き継ぎの体制作り等、今年度の取り組みを次年度につなげるための方法等について考えていきます

■実施場所: 学校見学(5/25:金)を除いて、研修はすべて、東京学芸大学小金井キャンパス内で実施します。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学 >>アクセス

■指導者:

・当センターの教員が、講義・演習等の講師のほか、研修全般にわたって、助言者、支援者として、受講者のサポートに入ります。・各研修プログラムでは、外国人児童生徒の指導や日本語指導において、経験豊富で指導的立場におられる先生方に、講師として参加していただく予定になっています。

[3]フォローアップ研修 B「来年も 楽しくやろう 日本語指導」

【第 5 日目】(2 月 2 日:土)

テーマ JSL 指導をもっと上手にやってみよう

目標 JSL 指導の授業改善の手がかりをつかむ

9:30~11:00 全体講義—JSL 指導の授業例紹介

・JSL 指導の模範授業例としてビデオ記録を視聴する。

授業例)教科指導(国語) 櫻井敬子先生(浜松市立遠州浜小学校)

初期指導(集団指導) 野口恵美子先生(新宿区立大久保小学校)

(必要に応じて、トピック型指導も取り上げる)

・模範授業例の指導上のポイントを解説する。

講師 臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)

11:10~12:00 グループ別演習—受講者の JSL 授業の相互批評(1)

・受講者はグループに分かれて、グループ内で互いの授業記録ビデオを見て、改善点を指摘しあう。1 グループは 3~4 人で構成する。

講師 佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)

高木 光太郎(東京学芸大学国際教育センター准教授)

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)

見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師)

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~14:45

グループ別演習—受講者の JSL 授業の相互批評(2)

・受講者はグループに分かれて、グループ内で互いの授業記録ビデオを見て、改善点を指摘しあう(続き)。

・全体討議のためのワークシート(授業の問題点と改善点)を記入する。

講師 佐藤 郡衛 (東京学芸大学国際教育センター教授)

高木 光太郎(東京学芸大学国際教育センター准教授)

臼井 智美 (東京学芸大学国際教育センター准教授)

見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師)

15:00~16:30 全体討議—JSL 指導の授業改善のポイントを考える

・グループ内での議論として、どんな問題点と改善点について話し合ったのかを、他のグループに向けて発表する。

・全グループから出された意見に対して、全体で問題点と改善点の捉え方とその内容についての再議論を行う。

・講師が JSL 指導の授業(改善)のポイントを助言し、まとめる。

講師 佐藤 郡衛 (東京学芸大学国際教育センター教授)

高木 光太郎(東京学芸大学国際教育センター准教授)

16:35~17:00 総括—JSL 研修会のまとめ

・全受講者から一言ずつ研修の成果を発言してもらう(研修成果の共有)。

・アンケートを兼ねた振り返りシートを、事後課題として受講者に出す。この振り返りシートの内容は、JSL 初任者研修会の報告書の中に「受講者の学びの成果」として掲載する。この振り返りシートで、各自で自らの 1 年の取り組みを振り返るとともに、報告書を通じて、他者の学びの成果を知る。

第 1 回 国際教育センターフォーラム

「多文化社会のなかの「学力」 ~新しい「学び」の可能性に向けて~」

東京学芸大学国際教育センターでは、今年度より新たな試みとして「国際教育センターフォーラム」を開催することにいたしました。このフォーラムは国際教育センターの専任スタッフが現在進行中の研究について報告し、国際教育の各分野に関心をお持ちの皆様とディスカッションをさせていただくことを目的としています。研究報告には共通テーマが設定されており、各スタッフはそれぞれの専門的立場から共通テーマを軸として研究報告を行います。初回となる今年度の共通テーマは「学力」です。多文化化する日本社会のなかで子どもたちに提供すべき「学力」とは何なのか。参加者の皆様と共に考えてみたいと思います。現場で教育実践に取り組まれている方、研究者の方、あるいはこうした問題に関心をお持ちの学生の方や一般の方もぜひご参加ください。

■主催 東京学芸大学国際教育センター

■日時:3月1日(土) 13時30分~

■会場:中野サンプラザ 8階 研修室2

〒164-8512 東京都中野区中野 4-1-1 TEL 03-3388-1151

最寄駅 JR 中央線・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩 1 分

プログラム

13:00 会場・受付開始

13:30 開会式・趣旨説明

13:40 研究報告

・文化間移動における最近接発達領域：社会文化的心理学の視点から
高木光太郎(東京学芸大学国際教育センター准教授)

・カリキュラムに通底する学力観—オーストラリアを事例として
見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師)

・学力向上に資する教員の指導力
臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)

・多文化社会における「学力」の再定義の試み
佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)

15:00 休憩

15:15 討論

【コメンテーター】

吉谷 武志(九州大学人間環境学研究院教授)

宇土 泰寛(椋山女学園大学教育学部教授)

16:30 終了